



夢はだれのもの

まつもとひろし

夢をみました。

叶うものと思っていました。

でも、つかんだ指の間から
するりと抜けていきました。

まるで黄色い風船のように
空に向って昇っていきました。

涙でいっぱい目で見つめた、
空にはきれいな虹がかかっています。

ひさしぶりの再会を喜ぶように、夢は、
その虹の輪の中に入っていました。

知らなかった。

夢というのは、虹がぼくにちょっと
貸してくれたものでした。

さようなら、とても楽しかったよ。
ありがとう、またいつか。

次はどんな色の夢にしようか。
今度、虹と相談してみるよ。